

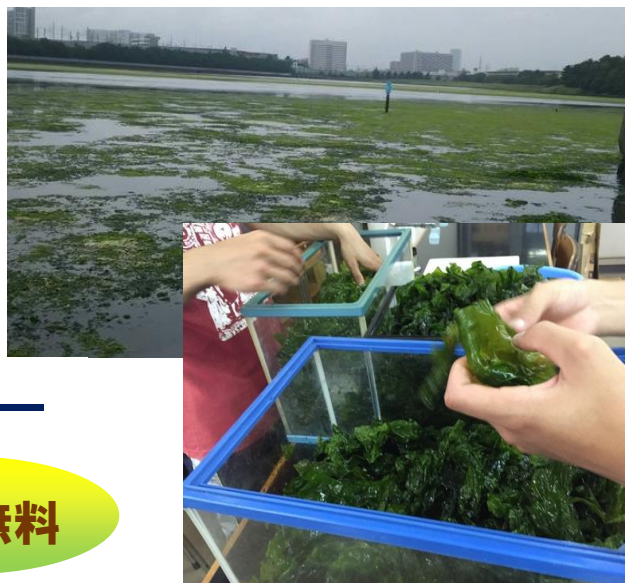


アオサの有効活用

津田沼高等学校生物部が バイオエタノール製造に挑戦！

- 講師 **吉田 裕志 氏**
県立津田沼高等学校生物部顧問
- 日時 **平成 29 年 2 月 4 日(土)**
午後 1 時～
- 会場 **谷津干潟自然観察センター**
- 定員 **先着 100 名**

入場無料



【津田沼高等学校生物部プロフィール】

- 創 部……昭和 39 年 活動日……平日放課後 場 所……生物教室
- 内 容……アオサ研究(バイオエタノール化、海洋酵母、肥料化、食品化)透明骨格標本、樹脂標本、野鳥観察、解剖、エビの行動
- 実 績……第 9 回高校生理科研究発表会、平成 27 年度千葉県高校生科学研究発表会、第 3 回生物系部活動発表会、世界湿地の日、谷津干潟の日サイエンスカフェ、第 17 回高校生自然環境サミット

【講演内容】千葉日報オンライン抜粋

夏場の腐敗臭などが問題視されている谷津干潟の海藻「アオサ」の有効活用へ、県立津田沼高校(校長 安田一夫)の生物部(高山美衣子部長)が、アオサを原料としたバイオエタノール(生物由来のアルコール)の製造に成功した。谷津干潟のアオサは、ミナミアオサと呼ばれる種類が中心。同部は、その有効活用を目指し、昨年 10 月末から吉田健太郎さん(16)ら 2 年生の男子部員がバイオエタノール製造に挑んできた。同部顧問の吉田裕志教諭(35)によると、乾燥と生のアオサ等で実験を行った。こうじ菌と酵母菌、水を入れたビーカーに原料を入れ温度 35 度の保温器で発酵。その結果、バイオエタノールができた。「バイオエタノールの原料にアオサは使えれば、環境問題や食糧問題に貢献できるのでは」と吉田教諭は期待を込めた。

今回の講演会はこの研究成果を発表していただきます。

同時開催：第 9 回 ふれあい祭 世界をつなぐふれあいフェスタ
「鳥との交流 谷津干潟 人との交流 国際交流」

- ◆お問合わせ/習志野市国際交流協会事務局 〒275-0016 習志野市津田沼 5-12-12 サンロード津田沼 6 階
電話/FAX 047-452-2650 E-メール：nia@jcom.zaq.ne.jp ホームページ：<http://www.nia08.com/>
- ◆後 援/習志野市、習志野市教育委員会